

OBRIGADA PORTUGAL

Oita Japan Portugal Association

「オブリガダ」とは、ポルトガル語で「ありがとう」(女性が言う場合)の意味です



佐藤大分市長と会談する新美大使



アルメイダ病院を訪れたシャビエル大使夫妻

今回は

◎ポルトガルとキリシタン・南蛮文化・・・P2
～ 臼杵市 ～

◎ポルトガルとキリシタン・南蛮文化・・・P3
～ 竹田市 ～

◎駐ポルトガル日本大使よりメッセージ・・・P4

をお届けします

大分市アベイロ市姉妹都市提携 40周年記念

大分市とポルトガルアベイロ市は昭和53年10月に姉妹都市の提携を行いました。その間、音楽交流やスポーツ交流などさまざまな交流を行っており、平成30年で、姉妹都市提携40周年を迎えます。

今年は、40周年を記念して、7月にアベイロ市長を団長とする訪問団が大分市を訪れる予定です。滞在中には40周年記念式典や中学生年代のサッカー交流やホームステイなどが行われます。本協会としてしましても大分市と協力し40周年を祝う歓迎会を予定しています。



大分日本ポルトガル協会

2018年
3月発行



■事務局

大分市企画部文化国際課 国際化推進室

■住所

〒870-8504 大分市荷揚町2番31号

■TEL / FAX

097-537-5719 / 097-536-4044

■Eメール

kokusai@city.oita.oita.jp

駐ポルトガル日本大使よりメッセージ

平成30年3月6日に大分市を訪れた、駐ポルトガル日本大使である、新美 潤 特命全権大使より、大分日本ポルトガル協会のみなさまにメッセージをいただきました。

とても気さくな方で、「これからも大分を応援します！」との言葉をいただきました！



在ポルトガル日本国大使館

特命全権大使 新美 潤

■略 歴

昭和54年	4	外務省入省
平成 7年	7	在イラン日本国大使館一等書記官
	8年	1 在イラン日本国大使館参事官
	15年	4 在ロシア日本国大使館公使
	18年	7 在タイ日本国大使館公使
	23年	9 在ロサンゼルス日本国総領事館総領事
	29年	9 特命全権大使 ポルトガル国駐劄

大分日本ポルトガル協会の皆様、はじめまして。

私は昨年11月に駐ポルトガル日本大使として着任いたしました新美（にいみ）と申します。大分日本ポルトガル協会におかれてはこれまで40年に亘り日本とポルトガルの交流、友好親善をご支援賜り、厚く御礼申し上げます。着任以来4か月、ポルトガルで暮らしてみて、私も気候良し、料理良し、人情良しのこの国がすっかり好きになりました。そして同じくこの国を愛される方々が大分にたくさんいらっしゃることに、大変元気付けられております。

さて、去る3月6日、用務で一時帰国中であつた私は、大分にお邪魔し、広瀬勝貞知事、佐藤樹一郎市長にご挨拶申し上げると共に、大分銀行ドームを見学させて頂きました。そして知事、市長より、大分一アヴェイロ両市姉妹都市提携40周年記念事業、2020年東京オリンピック、パラリンピックに際してのポルトガルに対するホストタウンの登録、陸上チームの事前合宿の招致構想等についてお話をうかがいました。私といたしましても、こうした交流が円滑に進むよう、できる限りお手伝いさせて頂く所存です。どうか大分日本ポルトガル協会の皆様、今後ともポルトガルを宜しくお願い致します。

編 集 後 記

今回の「オブリガード」は、いかがだったでしょうか。

29年度は、在京ポルトガル大使館からシャビエル特命全権大使、在ポルトガル日本国大使館からは新美特命全権大使が大分へお越しいただき、大分とポルトガルの歴史的な繋がりや、今後の交流などについてお話いただきました。また、取材で訪れた臼杵や竹田においても、その歴史を感じる事が出来ました。

事務局では、これからもポルトガルを知り、親しんでいただける情報を発信していきたいと思つます。みなさまからの情報・お知らせなどがありましたら、ぜひ事務局までお寄せください。

★大分日本ポルトガル協会事務局★

ポルトガルとキリシタン・南蛮文化 ～竹田市～

竹田市 「竹田キリシタン研究所・資料館」



竹田キリシタン研究所・資料館

また、専門の職員から当時の歴史背景や謂われなど、興味深い話を詳しく聞くことができるとともに、ボランティアガイドが主催する「竹田キリシタン城下町散策ツアー」に参加することも出来ます。

【資料館のお問い合わせ先】

大分県竹田市大字竹田町581
TEL:0974-63-3383

豊後竹田（旧岡藩）は、藩ぐるみでキリシタン隠しをした「隠しキリシタン」の城下町。城下町の随所にキリシタン遺物が残り、武家屋敷通り近くには、日本最古かつ唯一の手握りのキリシタン洞窟礼拝堂が、400年の時を超えて今も残ります。竹田キリシタン研究所・資料館ではキリシタン遺物45点、イコン画約30点を展示し、竹田とキリシタンの謎を語る上で必要不可欠な遺物である「(伝) 聖ヤコブ石像」や「INRI石碑」「サンチャゴの鐘」などを見ることができます。



(伝) 聖ヤコブ石像



サンチャゴの鐘

大分の歴史を語る上で欠かせない人物、フランシスコ・ザビエル。その兄の末裔であるルイス・フォンテス神父も資料館をたびたび訪れており、616点にも及ぶイコン画（宗教画）を寄贈しています。

また、竹田の城下町にはキリシタン洞窟礼拝堂のほか、数多くのキリシタン遺物が点在しており、それらを見学するための散策MAPも用意されています。興味のある方は、



ルイス・フォンテス神父から寄贈されたイコン画



フランシスコ・ザビエルの末裔
ルイス・フォンテス神父

「TAKETAキリシタン公式ホームページ

<http://www.taketan.jp/christian-taketa/index.html>」をご覧ください。

中世末期から江戸時代初期、竹田はキリシタン・南蛮文化のパライソ（ポルトガル語でパラダイスの意味）でした。みなさん御存じの「岡城跡」にも南蛮文化の影響があったのではとされています。

さあ、みなさんも謎解きの旅に出てみませんか！！

ポルトガルとキリシタン・南蛮文化 ～臼杵市～

1543（天文12）年、暴風に遭った中国船に乗り組んでいたポルトガル商人が、鉄砲とともに種子島に漂着しました。この出来事を機にポルトガルと日本の交易が始まり、豊後にも南蛮船が寄港するようになりました。このような歴史から、大分にはポルトガルとゆかりの深い「キリシタン・南蛮文化」に関する資料がたくさん残っています。

臼杵市 「サーラ・デ・うすき」



サーラ・デ・うすき



エヴォラ文章

サーラ・デ・うすきは、大友宗麟の時代に臼杵に実在したと言われる「ノビシャド」（修練院）を模して造られています。建物のなかでは、臼杵市の歴史上重要な南蛮交流に関する展示資料や映像資料を見ることができます。

南蛮屏風には、南蛮船の入港や外人町の賑わい、宣教師や教会が描かれています。ここに展示されるものは16世紀後半～17世紀にかけて作成された南蛮屏風のレプリカとなり、実物はポルトガル国立美術博物館に保存されています。



南蛮屏風

また、ポルトガルのエヴォラ公立図書館の壊れた屏風の下張として発見されたエヴォラ文章（レプリカ）も展示されています。この文章にはキリスト教の洗礼を受ける際に学ぶ「日本カテキズモ」やヴァリニャーノの臼杵の修連院での講義録、カレンダリョ（教会暦）、安威志関係の文章などが書かれています。

臼杵市 「久家の大蔵」

この大蔵は慶応4年（1868年）4月に完成し、以来、(株)久家本店の酒蔵として利用されてきました。平成9年以降に数度にわたる復元整備を行うなかで、ポルトガルの伝統的装飾タイル「アズレージョ」をほどこし、現在は南蛮文化交流施設として活用されています。



「アズレージョ」
ロジェリオ・リベイロ氏作